

おおとり会だより

おおとり会の運営



おおとり会会長

牛木 琴

混沌の時代を象徴するかの如く、私達をとり囲む内外の事情は目まぐるしく移り変わる今日この頃でございますが、皆様には各々處を得てご活躍のことと存し上げます。

県立大学構想が発表されてからは女子大閉学後の同窓会の運営を考えて、拠点を確保し組織の強化を計って参りました。女子大のあかしを県立大の中に残したいと多数の同窓生の署名簿を添え嘆願書を提出し、当時の内閣学長・千葉事務局長の御尽力で、図書館の三階に装いも新たにおおとり会室をいただき、毎週火曜各科毎に当番を定め管理し、会堂等に使用しております。組織の強化は前から活発な運営をしている食物科同窓会は益々充実した展開をしており、それにならって国文科も同窓会を結成し、隔年毎の会報の発行と国文科同窓会を開いて、会員相互の繋がりを密にしています。

女子大、女子短大まとめての同窓会おおとり会は、各科毎幹事の中から大学三名、短大三名、計二十四名の理事を選出し、年三回の定例理事会と必要に応じての臨時会議を開いて、総会、おおとり会だよりの発行、名簿の整理と発行行事への参加、対外的交渉等の決定をしており

ます。昨年は同総会室の移転に関して緊張した役員会を開きました。県内在住の方は地元紙の報道で御存知と思いますが、県立大に四年制看護学科の増設が打ち出され、それに伴い施設の拡張が直に問題となって事務局長より構想の内示があつて、クラブ棟(旧図書館)のとり壊しと同窓会室の移転が提示されました。公表は時を選ぶとの事で、理事の胸に納めておいていただいて、内閣学長、前事務局長に図り、私共の心情を大学(長谷事務局長)に訴え、県の裁断を待つと云うことに致しました。最終的には、又、皆様に署名などの協力をお願いすることを思い乍ら待機しておりましたが、平成七年一月着工、十二月完成予定で現在の食堂、学生ホールを拡張してクラブ室と共に、おおとり会室が確保出来ることに決まりました。その後、構内に唯一つのこり壊された図書館がとり壊されて看護学部棟の建設が八年一月着工、平成九年度看護学部学生募集となるようです。



総会

平成五年六月六日県立大小講室で開かれた総会には120名の会員が出席して大3国文鈴木さんの司会に依り議事に入り牛木会長のご挨拶、原副会長の平成四年度の事業報告、牧田会計の決算報告に続き平成五年度の予算と事業計画案が出席者の賛同で承認されました。

続いて「日本人の食形態と健康」と題して県立大学長の星猛先生(医学博士で世界的に著名な生理学者)の講演はスライドを随所に入れ、成人病と食事の関係、主食であるお米のよさ、和食のすばらしさなど、健康に対する認識を改めて考えさせる内容の濃いお話で心の栄養になりました。おひるは管理棟の学生食堂で立食パーティの懇親会。短13国文の武田さんの司会で始まりご出席の九名の恩師から順次ご挨拶をいただき、寛いだところで隣同志でジャンケンゲームが行われ童心にかえって大騒ぎ。優勝者は国文科の大津山先生で獲得された八千円はおおとり会にご寄附下さいました。

当番幹事の3と8回の皆様、企画から運営までご苦労様でした。

本年度総会は別紙ご案内の通り行います。多数の皆様のご出席をお願い申し上げます。

中

学

生



岡田寿子

(大学英文一回)

私立の中高一貫校の中学校に勤務するようになって9年になります。

近ごろの子供たちは変わったといわれますが、基本的にはあまり変わっていないように思います。明るく、屈託なく、何でも知りたがり、遊ぶことも大好きです。が、周りがそれを許してくれません。学校はたいして3時頃に終わります。毎日クラブ活動があると6時頃まで活動してそのあと塾。塾がある日は、家に帰り着くのが8時過ぎなどということもあります。そのあとにはどつきり宿題の山。机に向かうと、あつという間に睡魔に襲われ、やりたいことが完全にやりきれる前に一日が終わってしまいます。やりたいことやらねばならないことが両立させられない苛立ち、とにかく子供たちは忙しいのです。その上にこの時期、反抗期が始まります。ちよっと何か言うとうと、何倍もの口答えになって帰ってくる、やることもしつかりやらなで寝てばかりいるのに、親の頭には成績のことがチラついてきます。

子供は子供で、忙しくてやりたいこともろくにやれないのに、二言目には勉強勉強という親に辟易しているというわけです。

こんな時間の子供たちに、保護者会があるとき、親に何を言ってほしいかと尋ねます。長電話に文句を言わないで、勉強勉強と言わないで、小遣いあげて、等々。でもその中にゆつくり話したい、という答えが意外と多いのです。無礼な口はきくけど、心のなかでは、しみじみ親と話したいのです。きつい言葉で口答えはしていても、子供たちは、対人関係や、生活について、不安にあふれています。自分の勉強のやり方はこれでもいいのか今一つ自信が持てないとか、友達ともめているが自分の考え方は正しいだろうかとか、また何となく話したいときもあるようです。親にとつては、近ごろはるるに口もきいてくれない、何だか叱つたら荒れてしまいそうで何にも言えない、言いにくいという時期です。でも子供は、親から、ピシッと叱られたり、実は人生そんなもんじゃないうという大人の話の聞きたい気持ちもあるのです。でも親は、そんな話をする前に、二言目には、勉強勉強。親になんか話したって何にもならないと思ってしまうのです。

子供達のそういう不安を受けとめる場所として家庭や、学校が機能できるように努力したいと思います。

家庭の味と温かさを心がけて



中澤治代

(大学食物十七回)

私が静岡女子大学を卒業し、栄養士としての仕事を始めたのは、今の勤務先、特別養護老人ホーム巴の園が開所した、六年前の四月でした。

私は、巴の園に勤務するまで、特別養護老人ホームがどの様な施設か知りませんでした。特別養護老人ホームは、老人ホームとは言っても、元気なお年寄りが入居する所ではなく、主にねたきりや、身体上の障害があり、介護が必要であるけれども家庭では介護が受けられないというお年寄りが入居する施設です。そして、そんなお年寄りにとって、巴の園は生活の場であり、家庭の延長となるのです。

巴の園には、各御家庭から通って来るお年寄りもいます。施設にしてはめずらしく、街中に有るせいか、在宅向けのサービスも多く、ショートステイを始め、デイサービス、介護ホーム、入浴サービス、ホームヘルプサービスなど、いろいろ行っています。

もちろん私は栄養士ですから、お年寄り達の食事のお世話をする事が

仕事です。初めのうちは、減塩や、カロリーにこだわっているいろいろ考えました。けれど、今まで何十年も別々の食生活をしてきた人達を、無理矢理あてはめることはできません。栄養士として許される範囲内で、とにかく家庭の食事に近付けたい、と思う様になりました。お年寄りの口に合わず、残してしまつたのでは、せっかくなの食事何にもならない、と思うようになったのです。

最近では、食堂に、ガスコンロや鍋を持ち込んで、お年寄りの目の前で丼物をつくってみたりすることもあります。そんな時は、普段お粥しか食べられない方でも、普通の御飯を残さず食べてくれるのです。それを見ると、お年寄りから、何も言われなくても、とてもうれしくて、やはり家庭の様に、つくりたては違うな、と実感します。

これから、高齢化社会はどんどん進んでゆきます。巴の園のような施設を利用するお年寄りも増えてくることと思います。しかし、どんな所で食べても、食事の基本は、やはり、家庭の味と温かさだと思います。巴の園のお年寄りに、より家庭に近い食事をしていただく事が、私の願いです。毎日のお献立を楽しみにしているお年寄りから、「今日もおいしかったよ。」という言葉をお聞きするために、これからも、努力してゆきたいと、思います。

「人々のおしゃれの

お手伝い役とこな



堀内佳奈子

(短大国文十二回)

学窓を巣立つて振り返ってみれば早や三十年が過ぎ去ろうとしています。夢中でがむしゃらに生きてまいりましたが、貧乏性の私は、いつも何かしていない気がすまなくて半端ながら、母、妻、仕事人を使い分けてまいりました。

現在、某アパートで、ファッションアドバイザーとして働いています。

受持ちは紳士服のフロアーですが殿方のおしゃれの相談役、お買い物のお手伝い役を楽しみながらしています。売場に立っていて思いますことは、本当に人間は千差万別だなあということ、実に色々な方がいらっしやいます。朝お客様をお迎えする時、今日はどんな出会いがあるかしらと人知れず胸を踊らせます。

又、一緒に働いている仲間の人達も実に様々で勉強になります。物事言ひ方一つで相手の気持は良くもなれば、不愉快にもなります。

私が今まで仕事をして心掛けてきましたことは、「その人の長所を出るだけ早く多く見つけよう」ということです。欠点を捜すのは楽ですがパーフェクトの人はいないし、又いたとしてもおもしろくもおかしくありません。自分自身も欠点だらけです。色んな方の長所を捜し、自分に吸収し栄養にしていけば良いと思うのです。「我以外皆師」私の好きなことばの一つです。最近の新聞でも教訓的な言葉が掲載されていたのでここに紹介します。

迫害に続く迫害を余儀なくされたユダヤ人の教訓

○賢い人とはだれか——出会った人すべてから何かを学べる人である

○強い人とはだれか——自分を抑えられる人、敵を味方に変えられる人である

○豊かな人とはだれか——自分の持つているもので満足できる人である

○誉れ高き人とはだれか——人を中心から誉めたたえられる人である

なかなか心がけていても難かしいことですが、少しでも自分の気持ちをもつて、少しでも自分の気持ちで生きていきたいと思いたいと強く思いました。そして楽観主義に徹すること、悲観主義は後退につながる。楽観主義は前進につながると思えます。たった一回しかない人生、一日一日を充実させていい人生にして行きたいと願う毎日です。

私の夢は「Jリーガー」?



西内千恵

(大学被服二回)

「オーレ！オーレ！オーレ！」とJリーグ一色で暮れた一九九三年。Jリーグ開幕五カ月前の一九九二年十二月二十三日、約二十年ぶりに静岡の地を踏みました。「第四回プリマカップ・全国ママさんサッカー決勝大会」に関東代表として出場するために。

関東代表に決定した瞬間、私にとっては全国大会に出場できる喜びよりも静岡へ行ける嬉しさの方が大きく、この日を指折り数えて待っていました。大学時代のクラスメート、長橋典子（旧姓滝北）さんも草薙サッカー場へ駆けつけてくれ、一回戦第一試合、優勝候補ナンバーワンの清水FCママと対戦。「二桁差になれば俺は試合を放棄して埼玉に帰るから」と監督に威かされていたせい十一人のおばさんパワーを発揮し全力を振り絞って戦った結果、PK戦とはいえ勝利を得ることができました。勝てるとは夢にも思わなかった清水に勝った後は緊張の糸が切れたのか二回戦敗退。

運動不足解消と、息子の友人のお母

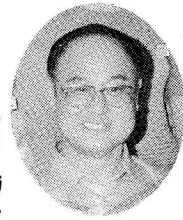


背番号 15 スローインしているのが筆者
第4回全国ママさんサッカー大会
北坂戸レディース対清水FCママ

さんから誘われて始めたサッカーも十四年。当初、子供の手前三日坊主になつては母親の面目まるつぶれと思いがむしゃらに練習に通い続けた結果、今ではすっかりサッカーのとりこになっています。Jリーグ人気たけなわの現在、長期に渡りサッカーに携わってきたことに誇りさえ感じております。サッカーを媒体としての交友関係も広がりました。友人を介して、ボニージャックスのメンバーの一人と知り合いになれたのもサッカーのおかげです。プロのもつ厳しさ、すばらしさを体得することができました。

個性の強いミセスの集団は、何かにつけ自己主張が強く、意見の対立も多いものの各々が肝に銘じていることはただ一つ「一人でサッカーはできない。」ということです。ある時は自己を赤裸々にさらけ出さざるを得ないスポーツゆえに、その中で得た友人との信頼関係は強く、生涯の友となつていきます。本格的に仕事を始めて二年前、油絵、手編みの趣味は小休止ですが、六カ月間の休養をとったサッカーは今年一月より再開。昨年は残念ながらできませんでした。去年は「また、かの清水エスパルスの地へいざいざ！」を合言葉に部員一同目標を絞ってがんばっています。

雨の草薙



高嶋健一先生

梨の花白くただよふ夜の逢ひも
みずからの翳を深めたるのみ(昭35)

北安東の女子短大の道辺には梨畑
があつて、季節になると梨棚を白い
花が飾つた。夜の薄闇のなかで、そ
の白は匂うように美しかった。

三十代に入つてまだ青春の夢を捨て
きれなかつた私の、これは一夜の
幻想である。闇に漂う梨の白花は、
現実の一人の女人より美しかった。

梨の花との出会いの夜であつた。

清潔に冬木立なす櫛若木もの忘れ
せることさわが日も (昭48)

草薙の女子大キャンパスの冬休みの
一日である。まだ櫛は若木で門を
入つての景観はひそやかであつた。
掲示板に就職案内の貼紙がはたは
た鳴つて学生の姿を見ないキャンパ
スの昼はべもの忘れせることさ
たたずまいであつた。いまはもう、
その櫛も白い女子大の校舎も見ら
れない。

妻子待つゆゑ喘ぎつつ帰らむか
雨の草薙 風の古庄 (昭61)

県立大学への移行は、必ずしも私
達の願つた姿にはならなかつた。
教務スタッフとしてその業務に従
つていた日々(美尾さんも同じ仲間
だつた)は、苦しみと憤りの連続で
あつたのだ。そんな一日、足久保の
自宅への帰途の思いである。
へ雨の草薙、風の古庄は私の憾み
ぶしとも言えるものだつた。

ご退官

平成六年三月末日を以つて県立大
学を定年退官されました先生方をこ
紹介いたします。

*英文科 畑 光夫教授

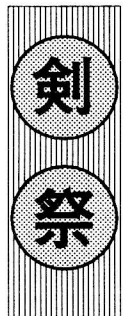
女子短大十六回生から女子大、県
立大と長年にわたり勤務されました。

平成六年四月からは常葉学園大学
外国語学部勤務なさいます。

*食物科 時田和子助教

女子短大創立の昭和二十六年より

女子大、県立大と長い間多くの学生
に食生活や栄養指導を教えられ、「静
岡の食事」の執筆もされました。



平成五年十一月六日県立大学の剣
祭におおとり会も恒例の参加をしま
した。大学正門から講堂迄の登り通
路の両側に学生達の各々工夫をこら
した模擬店が並び、お客の呼び込み
で賑やかなこと。おおとり会の店は
丁度真中の場所、短1被服の牛木
琴さんと竹沢好美さんの大鍋二杯の
おでん。短12食物の八木文子さんの
紅玉りんごジャム、大3食物の猿渡



南江さんのマドレーヌが出品され
いづれも手作りの美味しさが人気を
呼び三時間程で売り切れました。
売上金約二万三千円は本会計に納
入致しました。

学生会館の中では短11国文の高成
田和子さんが女子大に引き続き指導

されている茶道部のお茶席が設けら
れて、華やかな和服の学生達のお点
前が披露され盛況でした。

ロビーでは短6食物の岡田てる子
さん(琴静流宗家)とお弟子さんが
奏でる大正琴に耳を傾ける人々も多く、
剣祭に色々な形で同窓生が参加され
ていて楽しい体験の一日でした。

平成五年度基金協力者

塩川悦子 丸山清史 高梨朝子
保本和美 羽生裕紀子 柘植博子
大垣ひろ江 安本育代 神田真由美
山川愛子 ラウ・敏衣

お知らせ

美尾先生の遺稿集が発行されました。
『熟願冷諦』 静岡県出版文化会
『記要』 静岡県立大学
御希望の方は、お問い合わせ下さい。
※名簿発行・注文受付開始
短大・女子大卒業生が載ってい
ます。
一部2500円(送料500円)
振込先 名古屋 9-24671
静岡県立女子大学女子短期大学
同窓会 おおとり会 宛
振込用紙に名簿購入と書き入れて下さい。
※テレフォニカードの残り少々あり。

訃報

女子大名譽教授仲野尚一先生平成
六年四月七日(逝去)なされました。
女子短大・女子大被服科講師大橋
豊久先生平成五年五月七日(逝去)
なされました。

ご冥福をお祈り申し上げます。